

子どもたちの歩みと私たちの歩み

岡山大学大学院教育学研究科 教授(特任)
岡山大学教育学部附属特別支援学校 校長

仲 矢 明 孝



私は特別支援学校や大学で、長く特別支援教育に携わり、今も特別支援学校で子どもたちと関わらせてもらっています。

小学部の教室で絵本の読み聞かせが始まると、目を大きく開いて食い入るように見つめる子どもたち、とても辛いことがあったにもかかわらず精一杯の笑顔を見せてくれた中学部生徒、自分の目標を達成しようと汗をいっぱいかいて何とかやり遂げたときの疲れと満足感の入り混じった複雑な笑顔の高等部生徒等、子どもたちは、日々様々な姿を見せてくれます。私は、その姿を見て心を揺さぶられ胸が熱くなることもしばしばです。

また先日、同窓会パーティーが行われ、今年も大勢の卒業生が集まって来ました。担任してもらった先生に見せようと、買ったばかりのスーツ姿でさっそうとやって来た卒業生、私の顔を見るなり泣きじゃくりながら辛かったことを一生懸命話してくれた卒業生、会が始まると、ステージで得意な「いい日旅立ち」を気持ちよさそうに歌い上げた卒業生、親の面倒を見るために短時間勤務の職場に変わったことを穏やかに語ってくれた卒業生等、ここにもたくさんさんの姿がありました。

子どもたちは、一人一人、その時々をしっかりと生きています。精一杯踏ん張りながら、思いっきり楽しみながら、色々な夢を追いながら、今をしっかりと歩んでいます。そんな子どもたちの歩みは素敵な時を刻んでいるように思えます。

特別支援教育の目的は、子どもたちの自立と社会参加と言われます。私たちは、子どもたちが持っている力を十分発揮し、よりよく生きてほしいと願い、教育に取り組んでいます。子どもたちの自立する姿は、一様ではなく、一人一人異なります。私たちは、この子の自立する姿を描き、子どもたちと一緒に歩んでいます。

このような子どもたちとの歩みの中で、私たちは子どもの姿から新たな気づきを得て学び、そして、少しだけ物わがりの良くなった私たちから、今度は子どもたちが学びます。子どもたちと私たちの学び合い。子どもたちと関わり合い、学び合いながら、日々、創造的な取り組みができること、子どもたちと共に歩めることが、私たち教師の大きな喜びであることを今も実感しています。